

巻頭言

今までを振り返り、
今後に期待して

LCJE ニュース編集長 石黒 イサク

ローザンヌユダヤ人伝道協議会（LCJE 日本支部）は、1994 年 10 月 23 日に発足いたしました。中川健一先生が最初の支部長で、事務局長の黒田禎一郎先生と石田正美先生、田中時雄先生が運営委員としてのスタートでした。私も 1997 年から運営委員になり事務局長、そして現在まで、ニュース編集長をさせていただいています。

この日本支部は、世界の他の地域や支部とはかなり違う、特別な形で歩んでまいりました。それは極東の島国である日本には、ほとんどユダヤ人が住んでいない上に、クリスチャン人口も総人口の 1% にもならないという特別な環境であったからです。さらにイスラエルや中東問題に関しては、キリスト教会のほとんどが無関心か、距離を置くという状態でしたから、船出はなかなか難しいものでありました。

日本では戦前から、ホーリネス教団などがイスラエルの救いのために祈り、海外の諸団体の支援などをしていましたが、直接伝道をしている団体・個人はごく少数で、その存在はあまり知られていませんでした。

ですから日本支部は長い間、ユダヤ人伝道団体の一つのような形で、ユダヤ人伝道の必要性を説くという啓蒙活動から働きを開始しました。おりしも旧ソ連の崩壊により、多くのロシア系帰還民がイスラエルに満ち溢れ、イスラエルに於ける伝道が急速に拡大していた時でした。そこでイスラエルの動向を知らせて祈りの要請をし、また現地のメシアニックジュなどを支援するために献金を募ったりしてまいりました。

基本的に海外からの情報は英語が多くて、そのままではなかなか日本のクリスチャンたちには届きません。そこでユダヤ人伝道の情報や海外からのニュースを翻訳して配信するために、LCJE ニュースを日本語で発行し始めたのです。1994 年の第 1 号から 2002 年の第 29 号まで、季刊で一年に四回配信していましたが、第 30 号 2002 年 4 月からは月刊で今回の 246 号まで継続することができました。多くの皆様のお祈りとご支援を心より感謝いたします。

この二十数年間に運営委員も世代交代をして、所属団体も入れ替わり、近年はユダヤ人伝道を実施している団体・グループも増えてきて、ようやく世界の他の地域と同じように、本来の姿である、ネットワークとしての形に移行しようとしています。運営委員たちや奉仕者たちはすべて、他にフル

タイムのミニストリーを持っている牧師や伝道師が、ボランティアでして、専属の職員などはいません。実に多くの先生方、兄弟姉妹方の祈りと献身的な奉仕と犠牲的な支援によってこの働きが保たれてきたのです。

事務局も黒田先生の教会の事務所を間借りしてスタートし、VIP 関西センターに移転してからも、オーナーの梅津兄などのご好意で、何度か引っ越しをしながら、これまで継続してくることができて本当に感謝しています。

2017 年秋には和歌山、大阪、そして東京に於いて、東アジアで初めての LCJE カンファレンスを開催することができました。この数年は来日するイスラエル人がかなり増加していて、イスラエルのエルアル航空が日本まで直接便を運行するという環境になってきていました。いよいよ「日本にいながら、ユダヤ人伝道が実践できるチャンス」と期待していたのですが、現在、新型コロナウイルスの問題で観光産業が大打撃を受けていて、来日するイスラエル人は激減することと思います。現在の肺炎騒動が沈静化するまで、また終息してからも、当面はお預けになることでしょう。

しばらくは祈りつつ、今後のための組織改革と、準備期間になるようです。主のご計画、主の御業にはミスも失敗も、遅延も後悔も存在しませんので、今の私たちはその事を受け止めて、主の知恵と導きをいただいて前進していかなければなりません。

LCJE 日本支部は、今後も LCJE の他の地域の支部とともに、ユダヤ人伝道の情報交換の場として、特に国内で活動している諸団体・個人との協力関係のためのネットワークとしての役割を果たしていきたいと願っています。ローザンヌ規約に賛同するクリスチャンで、ユダヤ人伝道に関わっておられる方々のご参加と情報共有をよろしくお願いいたします。

また今後はこのような印刷物の発行は、年に二回ほどに減らすことになります。代わりとして SNS などを利用して、情報発信、情報交換を進めていきたいと願っています。

皆様のご理解とご協力、お祈りとご支援をよろしくお願いいたします。すべては主の栄光のために、そしてユダヤ人の救いのために。



P2	ライフィンメサイヤ	石黒 イサク
P3	LCJE コ・ワーカー	鍵谷泰世
P4	シオンとの架け橋	石井田 直二
P5	アルコイリス・ミニストリー	早川 衛
P6	ハティクバ・ミニストリー	高瀬 真理
P7	メシアの家	網元バフロ
P8	P7の続き / お知らせ	事務局より

何を持って伝道・救霊に携わるのか

ライフ・イン・メサイヤ・インターナショナル日本委員 石黒 イサク



去る2月27日、約20年にわたって我らのメンバーの一人として働いていたドリス姉を天に送りました。彼女はニューヨーク出身のイタリア系アメリカ人で、かなりの高齢になってから、ムーディ聖書学院でユダヤ人伝道を学び、共に働く団体を模索しているところで、我らの前代表、ウェスレイ・テーバー師と出会いました。

1995年から、当時はまだ、AMF インターナショナルという名称でしたが、我々と共にというよりも、彼女自身で熱心にユダヤ人に対する伝道を進めていきました。彼女の得意の方法は個人伝道で、大衆伝道や専門的な研修会などではありませんでした。老人ホームなどの施設で、彼女は積極的に語りかけて行きました。反発する人や無視する人たちが多くの中に、彼女は少しもひるまずに友達作り、関係継続を図りました。それは彼女がユダヤ人伝道に召されたという召命を常に憶えていたことと、その困難さを良く理解していたからでした。私たちが忘れてはならないのは、種まきをする前に良く土地を耕さなければならないということです。みことばの種まきには特にその事が大切であります。

孤立していたユダヤ系の老人たち、人とはなかなかうまく行かない人たちが、次々と彼女に対して心を開き、福音に耳を傾けるようになり、メシアを受け入れました。ドリスの祈りの課題にはいつも多くの名前がリストが出ていました。年次リポートには何人がメシアを受け入れたと必ず記されていました。天の御国で彼らに会うことができるのは何という祝福でしょうか？

私たちのスタッフの幾人かが今この時に、イスラエルに行っていますが、コロナウイルスによる規制のために、滞在も、移動も、出入国も容易ではないと報告しています。本当に何をしても神様の智慧と守りと導きが必要です。すべてを支配しておられる全知全能の神様を信頼し、その御方を愛して従っていると公言する私たちは、このような危機的状況の中で、主に対する忠誠とともに、周囲の人々に対する愛と誠実を試されていると感じます。願わくは、今のこの時を本当に有益な祈りの時、黙想の時、準備の時、そして今でなければできない事をする行動の時としたいと願っています。

イスラエルのアッシュドッドにて、ヤド・レアキム

＝反宣教団体の活動の一つが公表され、ミッシヨナリー＝宣教師たち（クリスチャンやメシアニックの伝道をする人たちの総称として用いられている語）に対抗するためにボランティアを募集しているというのです。英語ニュースは以下のリンクから、<http://www.israelnationalnews.com/News/News.aspx/277020>

いつものことですが、主が素晴らしい働きをしておられる所に必ずサタンの妨害・攻撃が入って来ます。福音の敵である彼らは、「宣教師たちが毎週、食べ物や寄進を用いて多くのアッシュドッドの住民を彼らの所に引き入れて、改宗させようとしている」とレポートして、ラビたちの連名で、そのユダヤ国家を腐敗させる活動を阻止するために、ボランティアを募っているというのです。彼らは安息日の直前に「ベイト・ヒレル」というメシアニックの集会所の外側に集まり、大音響でプリムの祭りの時に用いるエステル書の言葉を大声で歌いながら、ダンスをしたのです。（写真参照）

イエス様の言葉に『**汝らの仇を愛し、汝らを責むる者のために祈れ。**』（マタイ 5:44）とありますので、彼らの救いのためにお祈りを継続してまいりましょう。愛と祈りこそは、困難で問題の多いユダヤ人伝道のために、必須の鍵であります。



▲ Credit: Yad L'Achim

キリスト教会の外側で踊る超正統派ハセデックのメンバーたち

『**イスラエルは義の律法を追い求めたれど、その律法にいたらざりき。何の故か、彼らは信仰によらず、行為によりて追い求めたる故なり。彼らは躓く石に躓きたり。録して、「視よ、われ躓く石、さまたくる岩をシオンに置く。之に依り頼む者は辱められじ」とあるが如し。兄弟よ、わが心の願い、神に対する祈りは、彼らの救われんことなり。われ彼らが、神のために熱心なることを證す。されどその熱心は知識によらざるなり。それは神の義を知らず、己の義を立てんとして、神の義に従わざればなり。**』（ロマ書 9:31～10:3）

ユダヤ人と異邦人の役割について思うこと

LCJE コ・ワーカー 鍵谷 泰世

イスラエルのオリーブ山に戻ってこられるキリストを迎えるのは、ユダヤ人です。ユダヤ人の目が開かれ、「主よ。来たりませ。」と叫ぶ彼らの叫びに答えて、主は再び来られるのです。

神の契約の民としてのアイデンティティーがユダヤ人の内に回復し、イスラエルの神を王として、神に仕える民に建てあげられる必要があります。神を主と仰ぐダビデ王が治め、王に信頼する民で構成されていたイスラエルは、回復されなければなりません。

ただ神の憐れみと恵によって迎えられた異邦人は、イエスの御名でユダヤ民族を祝福し、ユダヤ民族が神の本来の目的の民となる事を執り成していく必要があります。

異邦人がユダヤ人に犯した罪（キリスト殺しの汚名を着せ、神に捨てられた民族として迫害し虐殺してきた歴史上の事実を、反ユダヤの思想でユダヤ人を嫌悪し呪ってきた事実）によってユダヤ民族に刻印された傷、十字架に対する恐怖と憎悪、深い悲しみと痛みを知り、彼らの嘆きの原因である我々の無知と憂い、異邦人が犯してきた罪を神に悔い改めること、そして、ユダヤ人の心に深く刻まれているユダヤ民族が負った痛みと悲しみの癒しのために執り成すこと、また、聖書と十字架の主イエスを人類に与えてくれたユダヤ民族に感謝と祝福の祈りを積み上げて、民族の傷を覆いつくすほどの祈りで満ちし、キリストの血潮の恵みが彼らに豊かに注がれるように祈り、献げ、働くことが、神に与えられていた異邦人の務めだと思います。

教団教派、地域教会、各々の働きや立場のままでイスラエルに思いを向け、御霊によって執り成すと、同じ一つの御霊が教団教派の壁のない、大きな神の臨在の場を設けて下さいます。そして、神の喜びと解放という霊的に開かれた広い地にそれらの魂を導いて下さいます。イスラエルを祝福する心、イスラエルを思う心が一つとなって目には見えないけれど霊において、大きな神の教会がたてあげられるのです。

祈れば祈るほどイスラエルへの愛は深まります。異邦人の教会の目が開かれて、イスラエルを祝福する思いが与えられますように。また、イスラエルに対する祈りの輪が広がり、御霊により異邦人の信仰を一つとする愛の結び目が築かれますように。

また、イスラエルを祝福する者は祝福されるのです。イスラエルを祝福する教会は啓示の霊が注がれ、み言葉が啓かれてみ言葉の真理が語られるようになります。それは体験によって実感することでしょう。

超教派でイスラエルのために共に集まって執り成し、祝福する場が世界で頻繁に持たれたら良いと思います。一人



一人のクリスチャンは神の新しい創造、新しい一人の人の生きた細胞となるのです。

異邦人の役割は、各教会の働きと奉仕を担いつつ、「イスラエルの神」の民イスラエル（ユダヤ民族）の存在の意味を正しく理解して、主イエスのみ心ゆえに、ユダヤ人の敵とはならず、イスラエルを祝福すること、そして、ある人々は、その務めを諸教会やクリスチャンに広めて和解の働きを遂行していくこと。

メシアニック・ジューの役割は、ユダヤ民族が神の本来の目的の神の民として整えられるために、神が遣わされたイエスを拒絶した罪に同胞が気づき、悔い改めるように執り成すこと、そして、霊的に死んでいる同胞を憐れみ、ダニエル書 9 章 4 - 19 節のような民族的執り成しと、また、イエスの御名で祝福してイスラエルの回復のために仕えること。

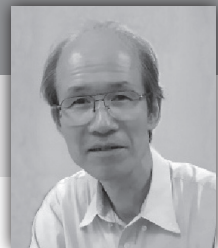
異邦人は契約の民から旧約に裏付けられた聖書を学んだり、ユダヤ民族の歴史を通して神の真実を知ること、聖書の神こそが生ける真の神である事に確信が増すと思います。

ユダヤ人は無割礼の異邦人をも救う十字架の奥義を受け止める事で、血潮の力と神の愛の広さ、長さ、高さ、深さを知っていくのだと思います。

また、“ユダヤ人と異邦人が一つとなって一人の新しい人に！”というビジョンを持つ方々がその幻を掲げて祈っていくならば、各々、異邦人の群れとメシアニック・ジューの群れは、継目がわからないほど、きれいに組み合わせられる丁度良い形に整えられていきます。それは、宮大工の技のように時間をかけ、丁寧にきちんとした仕事で成され、御霊の計算で完成すると思います。

主が来られると、それは永遠に外れない一本の木として組み合わせられ、キリストの創造された一人一人の人として完成し、主が治められます。

各人、主に与えられた重荷に従い、召された地、召された民族の救いのために働きつつ、各々の役割の務めを果たしていくことで、神の国のために働いた僕として、主に覚えられ喜んでいただきたいと思います。



コロナウイルス危機をチャンスに

シオンとの架け橋 石井田 直二

新型コロナウイルス感染が「パンデミック」と宣言されたことで、世界中が大きな影響を受けています。多くの専門家は、このウイルス流行は長期戦だと言い始めています。これは、LCJEの祈禱会開催だけにとどまらず、今後のユダヤ人伝道にも深刻な影響を与えるものではないかと思われます。しかし、その一方で、新たなチャンスも生まれています。

1) 新しい時代が来ている

新病原体のDNA配列を短時間で特定し、感染ルートがリアルタイムで追跡できるというのは、間違いなく、人類史上始まって以来のことです。たぶん、今回と同じウイルスが30年前に発生していたら、そもそも通常の風邪と臨床的に判別するのが不可能であるため、肺炎による死者が例年より増えて「なぜだろう」という話で終わっていたでしょう。

しかし、今回の感染拡大をきっかけに、超高速DNA解析装置や、PCR法で病原体を検出する設備や技術が全世界に大量普及することは確実です。そうすると、新病原体が発生した場合には、同じような事態が繰り返されるでしょう。

風邪やインフルエンザをこじらせるなどして肺炎で死ぬ高齢者は、毎年毎年、日本では10万人以上もいます。今までは「冬になると風邪が流行る」で済んでいましたが、ある高齢者の死因となった風邪が「いつ、どこで、誰から」うつされたかが追跡できると考えたら、とても恐ろしい話です。誰もが殺人者になりうるからです。人が移動して集まる活動そのものが、今後は困難になると考えなければなりません。

2) イスラエル人の観光客は

3月10日から、イスラエルは事実上の「鎖国政策」を取っており、他国も次々に同様の対応を取っています。これが解除されても、観光が大きく落ち込むのは必至かと思われます。イスラエル人は非常に危険に敏感で、9年前の震災で放射能漏れが起こった時も、私たちが驚くような反応でした。テロの危険と隣り合わせで生活する方が危ないと思うのは私たちの感覚ですが、彼らはなぜか、放射能やウイルス感染の危険の方に敏感に反応するのです。また、イスラエルから見ると東アジアは一つのブロックなので、中国から新しいウイルスが発生したことで警戒感が強まり、しばらくはイスラエルから日本への観光は回復しないでしょう。

イスラエルから年間約5万人も観光客が来ていたのに、私たちはほとんど「見逃し三振」状態だったので、神様から少し準備の時間をいただいたと考え、次の一手を考えるべき時期ではないかと思います。

3) 意外に使えるオンライン会議

昨年からはメシアニック・ジューの若者とアジアのクリスチャンの交流プログラムに関わるようになり、オンライン

会議の使い方を覚えました。私たちが使ったのはZoomという会議システムですが、この会社はコロナウイルス禍で売上を急伸させている会社の一つです。この体験は、コロナウイルス禍で私たちの教会活動が制限された時に、とても役立ちました。

LCJE 日本支部の運営委員会でも Skype というシステムの音声会議を使っているのですが、けっこう話しにくいと感じていました。でも、映像つきだと、誰かの発言に誰がどんな反応なのか、一目でわかるので、とてもコミュニケーションが楽なのです。

しかし、問題点もよくわかりました。まず、ソフトの操作に習熟する必要があります。そして重要なのが自分の顔の背景や照明で、また、インターネット回線の速度や安定性も必要です。コロナウイルス感染で集会ができない今こそ、こうした問題をクリアしてオンライン集会の開催に習熟してノウハウを蓄積すべき時ではないかと思います。

4) 地域や国境を越えた会議も

しかし、こうしたハードルさえクリアすれば、オンライン集会は新たな可能性を拓いてくれます。たとえば東京と大阪の合同祈禱会の開催も簡単ですし、北海道や沖縄などからも楽に参加が可能。足腰が弱って移動が困難な人でも、PC やスマホさえ操作できれば参加できるのです。自宅から参加すると、家族も集会内容を漏れ聞くことになりませんが、それは家族にも関心を持っていただけるチャンスです。

また、イスラエルやオーストラリア、ニュージーランドで伝道する人々との合同ミーティングも考えられるでしょう。ちょうど、ユダヤ人のゲストが激減して、相手も時間がたっぷりあるはずなので、うまく言葉の壁さえ乗り越えれば、じっくりと話を聞けます。タイムラグの関係で通訳はやりにくいので、英語ができる人だけ集めるセッションをしてもいいのではないのでしょうか。

先日は、チョーズン・ピープル・ミニストリーズの香港支部で実際にユダヤ人伝道に当たっている女性が、たまたま私たちの教会に来られて、現場の話をお伺いすることができて、とても励まされました。神学的な深い学びも良いのですが、伝道は熱意と努力です。家にユダヤ人を泊めている女性の話や、イスラエルで超正統派の妨害の中で宣教する人々の話を聞き、伝道の「元氣」をもらえる機会を提供するのが、世界的なネットワークを持つ LCJE の役目ではないかと考えます。

が与えてくれた時間に、新たな可能性に挑戦してはいかがでしょうか。



本物の愛を持つ人は

アルコ・イリス・ミニストリーズ代表 早川 衛

この原稿を書いている今日(2020年3月10日)現在、新型コロナウイルスの感染による全世界での死者数が4,000を超えた。そのため、不安が社会に広がっている。しかしながら、世界の歴史の中には、新型コロナウイルス以上の脅威とも言える疾病が数多く存在した。そのひとつがスペイン風邪である。これは、1918年から1920年にかけて、全世界で猛威を振った伝染病である。同疾病に罹った者は全世界で5億人に達した。つまり、当時の3人に1人がスペイン風邪に冒されたのだ。そして、約2,000万人から4,500万人が死亡した。日本でも約45万人が死亡したのである。ところが、この病気は、1920年になると収束した。その理由について専門家は、「スペイン風邪のウィルスが社会に満ち、人々の中に免疫システムができたから」と指摘している。つまり、何かが別のもので満ちる時、新しい事態が生じるのである。

さて、聖書には、イスラエルの救いに関し、次のように記されている。

兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である」と書いてあるとおりです。(ローマ 11:25～27)

このみことばは、スペイン風邪のウィルスが社会に満ちた時、同疾病が治まったように、この世界が、救われた異邦人で満ちる時、イスラエルはみな救われる、と教えるものであると解釈する。

それでは、異邦人の満ちる時までにすべきことは何であろうか。まず福音を語ることである。イエスは、エルサレムの破壊を預言した。また、多くのユダヤ人が死ぬことをも預言した。そんな時、多くのユダヤ人はイエスを殺そうとしていた。しかし、それでもイエスは福音を語り続けた。私たちがすべきことも福音を語ることである。第二にすべきことは、主に感謝することである。アメリカのがんセンターのある調査は「1分間、人が喜び、笑い、感謝すると体内に免疫システムが構築され、それが24時間継続し、逆に人が、1分間、怒り、不平を言い、心配すると体内の免疫システムが壊れ、その状態は6時間続く」と報告している。このように、科学も感謝や喜びは、人体の免疫力を向上させることを証明している。しかし、聖書は、数千年も前から、この真理を人類に教えているのだ。

「喜んでいる心は健康を良くし、打ちひしがれた霊は骨を枯らす」(箴言 17:22)、とあるからだ。新型コロナウイルスが蔓延しようとも、またどんな時であっても、主に感謝し、喜ぶことを忘れてはならない。

聖書にも**「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」(第一テサロニケ 5章 16～18節)**と書いてある。

第三にすべきことは、主に信頼することである。上述のとおり、100年前、我が国においてもスペイン風邪が流行った。しかし、その時、日本の教会には、リバイバルが起ったのだ。それは、いわゆる大正リバイバルと呼ばれるものであり、10年以上継続した。同リバイバルは、1919年11月17日に淀橋教会で行なわれた祈禱会からスタートした、と言われる。同祈禱会に参加した全ての者が、霊的な勝利を感じ、その感覚は継続した。そして、同年11月30日(日)の礼拝において聖霊が激しく降ったのだ。これは、日本中にスペイン風邪が蔓延し、人々に不安が満ちていた時でさえ、主に信頼し、祈りに明け暮れた主の民がいたことを意味する。そして、主は、その祈りに応えたのである。その当時の日本の霊的状况と現在のそれとの間には類似するものがある。今、すべきことは、主に信頼し、祈ることである。

しかし、最も重要なことは、神の愛に満たされることに違いない。聖書には、次のように記されているからだ。

「たとえ私が人の異言や御使いの異言で話しても、愛がなければ、騒がしいどらや、うるさいシンバルと同じです。たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っても、愛がないなら、私は無に等しいのです。たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることにしても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」

(第一コリント 13章 1～3節)

イエスは、エルサレムをご覧になり泣いた。それは、号泣であった。前述のとおり、イエスが、エルサレムの破壊や多くのユダヤ人の死を預言した後でさえも福音を語り続けた理由は愛である。愛を持っていたからこそ、イエスは、止まらず、あきらめなかったのである。

問題はコロナウィルスだけではない。問題は、神の民の心にある。本物の愛を求めよう。本物の愛を持つ人は、止まらない。そして、あきらめることがない。



キリストの弟子として(2)

ハティクバ・ミニストリー代表 高瀬 真理

ダビデの信仰告白は「主の家に住むこと」でした。「主の家に住む」とは、なにかの活動をするということではなく、ひたすら、主の家にくつろぎながら、主のすばらしさを知ることです。主の愛、主の恵み、主のいつくしみに触れ続けることです。今月号もキリストの弟子として3つのキーワード通してユダヤ人伝道の積極性を考えてみたいと思っています。

1.「主の家に住む」ことの3つのキーワードより、3つ目のキーワードより見ていきます。

1- (3) 謙遜の限りを尽くして、主に仕える

「主の家に住む」第三のキーワードである「謙遜の限りを尽くして、主に仕えること」を考えてみましょう。「キリストのくびきを負う」「キリストのうちにとどまる」ということを別な言葉で表現すると、「謙遜」「謙遜を着る」「謙遜の限りを尽くす」という言葉になるのです。

「謙遜の限りを尽くす」この言葉は、使徒の働き20章にある、パウロのエペソの教会の長老たちに語った決別説教の最初の言葉です。「謙遜の限りを尽くす」とはどういうことでしょうか。「謙遜の限りを尽くして仕えた」人の原型は「御子イエス」です。御子は御父に対して、実に「謙遜の限りを尽くされ」ました。使徒パウロはその御子イエスの生き方に倣って生きました。パウロにとって「謙遜の限りを尽くす」とは、「キリストにとどまること」であり、すべてのことを「キリストにあって」なすことでした。パウロは謙遜の奥義をキリストから学んだのです。私たちは御子イエスを通して、また使徒パウロを通して、「謙遜の奥義を知り、そしてその祝福を生きるように招かれているのです。」

2. 主の家に住む、新たな三つのキーワードの「祝福」

これまで、「主の家に住む、あらたな三つのキーワード」を挙げてきました。しかもその意味するところは同じテーマ、同じ思想をそれぞれ別の表現をしています。しかしその祝福については、少し表現が異なるのです。それを最後に見ていきたいと思います。

(1) 安息

ただ「キリストのくびきを負うこと」で、たましいの「安息」(安らぎ、平安)という祝福が与えられます。多くの人々がこの安心を手に入れるために頑張っているのではないのでしょうか。しかし聖書は、キリストのくびきを負うなら、たましいの安息が与えられるとしています。

(2) 自由

「キリストにとどまる」なら、「自由」という祝福を得ることが出来ます。それはヨハネ 8:31 です。「そこで、イエスは、

その信じたユダヤ人たちに言われた。『もしあなたがたが、わたしのことばにとどまらば、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。』」

私たちは、社会の、あるいは自分自身のうちにある様々なしがらみに捕えられています。そこから自由になることはできません。自分の能力、才能、性格など、それらが自由になることはなかなかできません。制約される多くの事柄が私たちを不自由にしています。ところが、真理はあなたがたを自由にするとはどういう事でしょうか。

(3) 高揚

もし、私たちがキリストに倣って「謙遜の限りを尽くして主に仕えるなら、「高揚」という祝福が与えられます。「高揚」とは、文字通り、高く上げられることです。イエスは弟子たちに僕として謙遜に歩むことを教えました。自らその教えを実践されたことは言うまでもありません。その謙遜はピリピ書 2章 6～9節でこう記されています。これは当時の賛美の歌であったとされています。

キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

謙遜の祝福は「高揚」です。それは神からの権威を与えることです。神の力が賦与されることです。その権威と力がなければ、主の働きをすることができません。大きな影響力を及ぼすことはできません。「高揚」の祝福を得るためには、へりくだることです。その源泉は御子イエスにあります。御子の御父に対する生き方、在り方を私たちが学ぶことで、へりくだることがどういうことか、私たちのイメージから離れて正しく理解することができ、そのことの奥義と祝福にあずかることができるのです。

もし、私たちが謙遜であるならば、自分の経験にたよらず、また自分の知識に頼らず、いつでも神を新しい心と思い、知りたいと思うはず。そして、絶えず新しい神からの光と霊の喜びと感動を与えられて歩むことができるはず。

私たちが真のキリストの弟子となるために、「キリストのくびきを負い」、「キリストのうちにとどまり」、「謙遜の限りを尽して仕えたキリスト」に見倣う生き方に目を留め続けていきたいと願います。主にある私たちひとり一人が「的を射た歩み」ができるように、激動の2020年ですが心注いでコ・ワーカーの皆さんと一緒に関心したいと思います。



♪人間こそ神のスペシャル!! 公平に扱う神の平和!!♡

メシアの家代表 網本 バフロ

褒めたたえよ!世界中が恐れているウイルスが拡大しても、主はろう者、聴者関係なく私たちを愛され、なおかつ、ユダヤ人、異邦人関係なく公平に生かされています!

皆さん、ご存知ですか?

「コロナ」というカタカナの文字を一つの漢字に変えることができるのです。それは意外な言葉で『君(キミ)』という漢字なのです。この漢字を見るたびにあのみことばが思い出されます。

「わたしの目には、あなた(君)は高価で尊い。わたしはあなた(君)を愛している」(イザヤ 43 4a)

残酷なホローコーストがあってもユダヤ人やイスラエルが全滅せず、イスラエルが独立されたように、どんなに世界が変わっても私たち人間は神のスペシャルであるということ、また神のアガペーに包まれていることを再定義しましょう。そして、イエシュアの贖いによって救われた初心に戻ってイエシュアの体の器官としてカーハール(エクレシア)に属し、全身全霊をささげましょう。

(エペソ 4:1-6)

☆J♡ISL部屋☆

【重要】

※ 前回ご紹介した手話は日本手話ではなく、イスラエル手話でした。日本語の中に色名(例えばオレンジ色や建物名(例えばタワーなど、外国語が使用されているように、日本手話も外国語を使用した手話単語があります。

今後から

①■イスラエル手話または■日本手話

②外国語手話使用(外国語の手話・単語)

という言葉をつけていきます。

実は、昨年12月に思いがけない、嬉しい神の奇跡があったので、ぜひ皆さんにシェアしたいと思います。まず私は、東京にある東久留米市に住んでいます。東久留米市にある唯一のインターナショナルスクールでランチイベントが行われ、私は、息子のパイリンガル言語(英語と日本語)環境

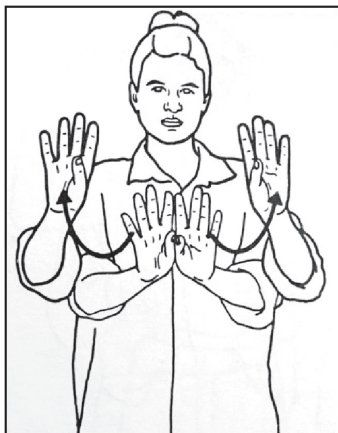


図1【メノラー/ハヌキヤ/ハヌカー】
■イスラエル手話(※外国語手話使用)

づくりのためにファミリーで参加しました。神の奇跡が起こったのはその日でした。それはイスラエル支援の活動歴を持つイタリア人の女性との出会いでした。彼女の名前はジュリアさんです。参加メンバーはさまざまな国からやってきた海外の人や国際結婚をされた日本人がほとんどであり、全員がイエシュア信者でした。参加メンバーのうち、私たち夫婦以外にメシアニック運

動をしている海外の人は存在しないと思っていた私の愛妻(ラテン系トリニダードトバゴ人)にジュリアさんが声をかけて下さったのです。「息子さんの名札に英語の"JOSEPH"を書かないでヘブライ語の"YOSEF"を書いたのはなぜなの?」と訊ねてきたので、私の愛妻はこう答えました。

「イエシュアの出身国であるイスラエルを愛しているの、出生届の英語の記名はそのままヘブライ語の英語で申請したわ!」するとジュリアさんはまた訊ねました。

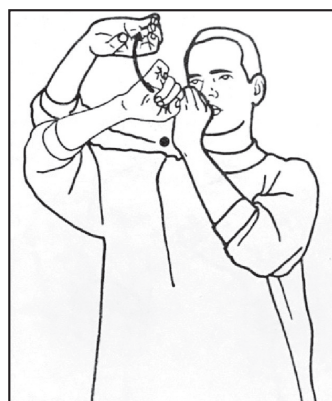


図2【ショーファー(角笛)】
■イスラエル手話(※外国語手話使用)

「もしかしてハヌカー祝いなどをやっていますか?」と。愛妻は「もちろんよ。私たちはろう者だけ集まってハヌカーフェスティバルをやっているわ。」それを聞いたジュリアさんは大変衝撃を受け、「そういう聴者の集まりがあれば教えてほしいわ。」と言って下さり、愛妻は同じ異邦人として早速ジュリアさんとアドレス交換をしました。これだけの

ショートタイムの出会いだったのですが、異邦人である愛妻と私は主の憐みの中で公平に扱ってくださる平和の神を褒めたたえ、感謝の祈りをささげました。なぜなら神はイスラエルを愛しているからです。またイスラエルに対するジュリアさんの思いを神は知っておられ、ろう者である私たち異邦人を用いてくださったからです。

「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう」(ローマ 11:33)

緊急ですが、希望あるお知らせがあります。現在、イスラエルには、ヘブライ語で礼拝をする聴者のメシアニックジューのカーハール(エクレシア)がいくつかありますが、イスラエル手話で礼拝をするろう者のメシアニックジューのカーハール設立については未だに進歩なしと以前、報告をしたことを覚えていますね。それは信じがたい事実でありました。

私の友人であるルーマニア人の牧師(ろう者)が今年2月上旬に初めてイスラエルで開催されたE.D.C.P.L(ヨーロッパデフクリスチャン牧師&リーダーウィーク)に参加したことを知り、彼から貴重な情報をいただきました。少々ミステリーな内容ですが、E.D.C.P.L参加メンバーがエルサレムを観光するプランがあり、一日参加として女性宣教師(ろう者)が突然現れ、4時間くらい参加してすぐ消えたという話でした。私は誰だろう?と思い、彼女について訊ねてみると、なんと私が神学生のとくにイスラエルについて講義をしてくださったイスラエル宣教師であることが分かったのです。

..... 8P へ続く▶

ハレルヤ！主を褒めたたえよ！！

彼女の名前はトレーシーさんです。トレーシー宣教師とは数年前までメールで連絡を取っていたが、急に連絡ができず今に至っていたのです。生死情報もなかったので、ずっと祈り続けていました。

私の友人（ルーマニア人牧師の話によって、トレーシー宣教師が今もエルサレムで、隠れて16人のろう者にイスラエル手話を使って聖書を教えていることが明らかになったのです。16人の中にメシアニックジューが存在しているか？はまだ不明ですが、今後のトレーシー宣教師の働きのために今、祈りに専念しています。神の導きの中で、再び彼女と連絡が取れたらメシアニックジューについて確認したいと思っています。

メシアの家は今の時点、アジアをスタートとしてシンガ

ポール、香港との協議のプロジェクトを立てていますが、皆さまもご存知の通り、ろう者はマイノリティであるため、聴者より人数が少ない分、資金面による運営が厳しい状態です。

皆さまより私たちメシアの家の働きのためにご支援をお願いいたします。

【メシアの家】ゆうちょ銀行

記号

10080 番号 87052131 メシアノイエ

店名

〇〇八（ゼロゼロハチ）店番 008 普通貯金 8705213

（他銀行からのお振込）

Email:info@hom-japan.com

（お振込みいただいた後、ぜひ Email にてお知らせ下さい）

LCJE

LCJE日本支部事務局レター

—— LCJE日本エリアコーディネーターより ——

LCJEニュースの愛読者の皆様、お一人お一人の上にイスラエルのメシア、主イエス様の最も豊かな祝福を心からお祈りいたします。そして私自身から、皆さまのLCJE日本支部のためのこれまでの貴いお捧げものとお祈りを深く感謝いたします。

すでに一部の方々はご存じのことですが、ハーベストタイムが退会されました。また支援者・コーワーカーにも変動がありましたので、今後のために組織改革などをしようとしています。皆様のお祈りとご協力をよろしくお願いい

たします。今まで約18年にわたりLCJEニュースを毎月発行させていただきましたが、今年春からは発行回数を変更することになりましたのでお知らせいたします。支援献金の減額による運営の効率化のために、今後は印刷物としては、4月と12月の年2回の発行となります。

LCJE日本支部のホームページを一層活かして、いつものように世界のユダヤ人宣教の情報や課題、記事を提供したいと思います。印刷物もインターネットやPDFも、今後ともどうかわ変わらずにご愛読をよろしくお願いいたします。
C. クリンゲンスミス

LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいよう、お願いいたします。

（ 2020年度祈禱会予定 ）

場 所	5月	6月	7月	会 場
大阪 (6:30より)	14日	11日	9日	北浜スクエア (VIP関西センター8F)
東京 (1:30より)	9日	13日	11日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈りにご参加される方へ】第二木曜日午後6時半開始です。

【東京祈りにご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。

階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

LCJE日本支部2020年02月度会計

収入・献金			支出・現金		
科 目	金 額		科 目	金 額	
献 金	100,350		事 務 費	12,800	
大阪祈り会席上献金	40,000		NEWSレター製作費	50,120	
			郵 送 費	40,800	
			郵便振替手数料	2,850	
			通 信 費	6,700	
			賃 借 ・ 管 理 費	22,000	
			高 熱 費 ・ 共 益 費	9,980	
			交 通 旅 費	7,000	
			祈 り 会 経 費	14,000	
合 計	140,350		合 計	166,250	
			差 引 残 高	-25,900	
前月よりの繰越	78,122		翌月への繰越	52,222	

事務局よりのお知らせ

LCJE日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いづれも大歓迎いたします。文字数は2000文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか、**LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM** 又は **FAX 072-867-6721** まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様今月号もお手元へニュースレターをお届けできる幸いを主に感謝します。コロナウイルスの一日も早い終息を主にあって願います。今月も多くユダヤ人が主とお出会いし救い主を受け入れる事、そしてイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。主の祝福がありますように。シャローム
LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝